

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1					
のタンク構造専用室 2	壁	延焼のおそれのある外壁			床		
		その他の壁			出入口	(しきいの高さ cm)	
	屋根				その他		
建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造 3		階数			設置階		
		建築物の構造概要					
タンクの構造、設備	形状	4			常圧・加圧 (5 kPa)		
	寸法	6			容量	7	
	材質、板厚	8					
	通気管 9	種別		数		内径又は作動圧	
						mm kPa	
	安全装置 10	種別		数		作動圧	
				kPa			
液量表示装置 11					引火防止装置 12	有・無	
注入口の位置		13			注入口付近の接地電極 14	有・無	
ポンプ設備の概要		15					
採光、照明設備		16		換気、排出の設備		17	
配管		18					
消火設備		19		警報設備		20	
工事請負者住所氏名		21 電話					

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

[屋内タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領]

- 1 「事業の概要」の欄は、事業の内容について具体的に記入すること。
- 2 「タンク専用室の構造」の欄のうち、その他の欄は、タンク専用室の建築面積を記入すること。
- 3 「建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造」の欄は、次により記入すること。
 - (1) 建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入しない。
 - (2) 建築物の一部に設置する場合は、建物全体についての建物構造を記入する。
- 4 「形状」の欄は、タンクの形状を「角型」、「縦置円筒型」等と記入すること。
- 5 「常圧・加圧」の欄は、該当する形態を記入すること。
- 6 「寸法」の欄は、当該タンクの寸法を「縦〇〇mm、横〇〇mm、高さ〇〇mm」等と記入すること。
- 7 「容量」の欄は、「実容量〇〇リットル、空間容積〇〇リットル(〇〇%)、容量〇〇リットル」等と記入すること。
- 8 「材質、板厚」の欄は、タンクの材質及び板厚を「底板〇〇mm、側板〇〇mm、屋根板〇〇mm」等と記入すること。材質が部材により異なる場合は、底板SS400 8mm等とする。
- 9 「通気管」の欄は、通気管の種別、数、内径又は作動圧を記入すること。
- 10 「安全装置」の欄は、安全装置の種別、数、作動圧について記入すること。

(例) ルームブラスター付大気弁1基〇〇KPa
- 11 「液量表示装置」の欄は、覚知装置を「自動式液面計」等と記入すること。
- 12 「引火防止装置」の欄は、有・無に〇をつけること。
- 13 「注油口の位置」の欄は、注油口の位置について記入すること。

(例) 「遠方注入口」(別添図面の位置)、「タンク直上」
- 14 「注入口付近の接地電極」の欄は、「有」・「無」に〇をつけること。
- 15 「ポンプ設備の概要」の欄は、ポンプ設備の種別(うず巻きポンプ、ギアポンプ等)、数、固定方法、設置位置について記入すること。
- 16 「採光、照明設備」の欄は、種別(窓、照明)、防爆構造の種別、数を記入すること。
- 17 「換気、排出の設備」の欄は、換気又は排出の別、素材、個数、引火防止網の有無等を記入すること。
- 18 「配管」の欄は、使用する配管の材質、口径、継手方法、外面防食方法を記入すること。
- 19 「消火設備」の欄は、(例)「第3種二酸化炭素消火設備(全域)」、「第5種(粉末ABC消火器3.5 kg)×3本」等と記入すること。
- 20 「警報設備」の欄は、危険物の規制に関する規則第37条で規定する区分のうち、設置したものを記入すること。
- 21 「工事請負者住所氏名」の欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入すること。